

年末に出荷でき果皮の紅色が濃い新品種カンキツ「KC-5」

仮屋 萌々子

鹿児島県農業開発総合センター 果樹・花き部

1. はじめに

鹿児島県の果樹栽培は、温暖な気候を生かし、ウンシュウミカンや中晩生カンキツなどカンキツ類を中心に産地が形成されてきた。中晩生カンキツの栽培面積は、カンキツ全体の70%となっており、そのうち2月に収穫期を迎えるタンカンが687 haと最も多く、次いで、主に年内に出荷されるポンカンが404 haを占めている（2020年産）。

本県産カンキツの出荷・販売は、9月の極早生ウンシュウに始まり、翌年5月頃の紅甘夏、夏季のハウスミカンと続くが、市場および消費者からは贈答用を中心とする年末に出荷・販売されるカンキツの要望が高い。露地栽培で年内収穫・出荷が可能なカンキツは、ポンカンが主であるが、近年の気候変動による地球温暖化に伴い、秋季の高温による着色の遅れや収穫直前の高温時の降雨による水腐れ症の発生が問題となり、面積が減少している。このような中、ポンカンに代わる露地栽培で年末の需要期に出荷でき、高い品質を有する新しい品種が強く求められていた。

そこで、鹿児島県農業開発総合センターでは、ポンカンに代わる新しい品種の育成に取り組み、年内に成熟し、果皮の紅色が濃く、無核で糖度の高いカンキツ「KC-5」を育成したので紹介する。

2. 品種育成の経過

2005年に旧鹿児島県果樹試験場（垂水市）において、

果皮の紅色が濃く、糖度の高い「べにばえ」を種子親に、雌性不稔性を有する「かんきつ中間母本農5号」を花粉親として交配を行った。育苗後、2009年に穂木を採取し、露地栽培のウンシュウミカン「かごしま早生」を中間台木として高接ぎを行った。2013年から果実特性調査を開始し、果皮の紅色が濃く、完全に無核で糖度は13°以上、良食味であった個体を2015年に選抜した。

2017年から鹿児島県農業開発総合センターにおいて、樹体特性（枝条の性質、樹勢等）の調査を行った。その結果、結実性が良く、成熟期は12月上旬と年内出荷が可能であり、食味などの品質が優良であったことから、2023年3月に品種登録出願を行い、同年7月に品種名「KC-5」として出願公表された（出願番号第36708号）。



図1 「KC-5」カット写真

表1 「KC-5」の果実特性

品種名	果実の形	果頂部の形	果梗部の形	果皮の色	油胞の大きさ	油胞の凹凸	果面の粗滑	浮皮果の発生	剥皮の難易	果皮の香り	じょうのう膜の硬さ	果肉の色	果汁の多少
KC-5	扁球形	陥没	球面	赤橙	小	凸	やや滑	無	中	アンコール	軟	濃橙	多
べにばえ	扁球形	平坦	球面	橙赤	小	平	滑	無	中	アンコール	軟	濃橙	中
かんきつ中間母本農5号	扁球形	陥没	短いネック	黄橙	小	凸	やや滑	多	やや易	紀州ミカン	中	濃橙	多

注) 2022年12月5日のポンカン「薩州」中間台高接ぎ6年生各品種3樹を調査。

表2 「KC-5」の果実品質

品種名	果実重 (g)	果実横径 (mm)	果形 指数	果皮色 色票値	赤道部 a 値	種子数 (個/果)	糖度 (°Brix)	クエン酸含量 (g/100 ml)
KC-5	147	69	113	9.1	25.8	0	14.8	0.86
べにばえ	185	76	126	9.8	29.9	11.1	15.1	1.41
かんきつ中間母本農5号	110	64	115	4.5	16.5	0	10.3	0.6

注1) ポンカン「薩州」中間台高接ぎ樹6年生(2022年時)各品種3樹を調査し、平均値を示した。

2) 果形指数は、横径÷縦径×100とした。

3) 果皮色色票値はオレンジ色系カラーチャート(農林水産省果樹試験場監修)により評価した。

4) 赤道部a値はハンディ型分光色差計(NF555, 日本電色工業(株))で果実の赤道部を2~3ヵ所を測定した。

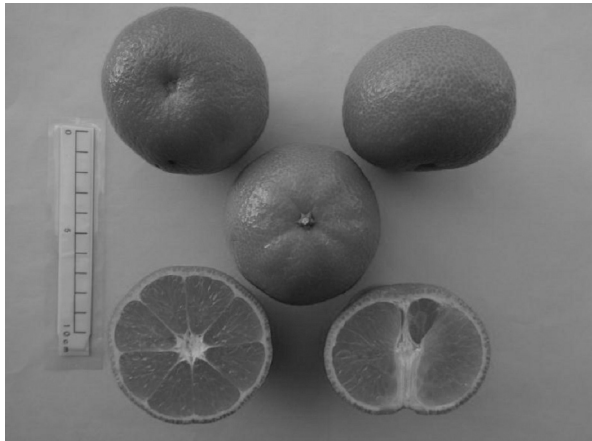


図2 「KC-5」の果実外観および断面



図3 「KC-5」樹上の果実

3. 品種の特性

達観による樹勢は「中」で、樹姿は開張および直立の中間である。葉身の形は「披針形」で、対照品種「べにばえ」の卵形とは区別できる。花序の形成は、直花および有葉花を形成する「総状花序」であり、花粉の多少は「中」である。

果実の特性および品質を表1および表2に示す。収穫期は、露地栽培では12月上旬、施設栽培では11月下旬であり、年末に出荷販売することが可能である。果実重は150g程度で、果実は果形指数で110程度の扁球形である(図2, 図3)。果頂部の形は花柱跡が陥没している。果皮の色は赤橙色で紅色が濃く、果皮色色票値は9.1で「べにばえ」と同程度である。浮皮果の発生は見られない。果皮の香りは「べにばえ」由来のアンコール香である。じょうのう膜は柔らかく、果肉の色は濃橙色で、肉質は軟らかく、果汁は多い。種子数は調査した3か年とも0個で、「かんきつ中間母本

農5号」と同様に無核である。糖度は14.8度程度で「べにばえ」と同等かやや高く、クエン酸は1%以下で食味が優れている。

なお、着花性・着果性が良いため、適正着果に努めるとともに、果実の肥大期における土壤乾燥時は灌水を実施する。また、かいよう病は葉や果実に軽い発生が見られるため、防風対策、罹病葉や枝の除去ならびに適期防除の徹底が必要である。

4. おわりに

カンキツ生産では、年内に収穫・出荷できる品種の導入は、贈答期の高単価が期待でき、経営上のメリットが多いことから、本品種の産地への導入が期待される。

〒899-3401 鹿児島県南さつま市金峰町大野2200

(かりや ももこ)